

# ものづくり 一步先を見据え

あすへの  
課題  
いわき市長選を前に

「メーカーの選定基準は」。8月7日、県ハイテクプラザ(郡山市)で開かれた再生可能エネルギー関連の会合で、いわき市の会川鉄工の会川文雄社長(69)が質問をぶつけた。

会合には、阿武隈山地などに計画されている風力発電の事業者と事業参入を目指す企業の担当者ら約80人が参加。商談が行われた。7月にいわき市内で風力発電の支柱をつくる専門工場を稼働させたばかりの会川社長には、受注への熱意があふれていた。

震災の津波で工場は被災。原発の事故で主力だった原発関連の大きな仕事がなくなった。社運を原発から風力発電にかけている。

風力発電は、約1万点の部品からなる組み立て産業だ。自動車産業のように裾野が広いが、日本では多くが輸入品だ。

会川鉄工は、小型の支柱

## 風力・ロボット…逆境を好機に

下  
復興

を100本納入した実績がある。大型の支柱は商談中で、会川社長は「浜通りはものづくりの下地があり、運搬に適した小名浜港もある。地域の産業として成り立つ」という。

東日本大震災と原発事故で被害を受けたいわき市で

は、逆境を乗り切ろうと、産業の地殻変動がじわりと起き始めている。

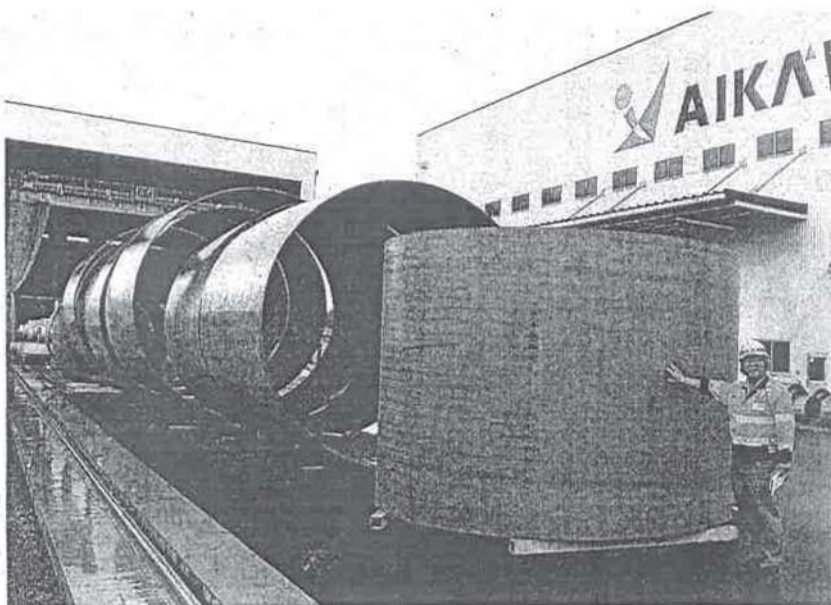
こうした動きを後押ししようとして、市や大学、企業などでつくる「いわき産学官ネットワーク協会」は今年度から、会川鉄工などを中心に地元企業で風力発電一式の供給を目指す「いわきウィンドバレープロジェクト」をスタートさせた。5年をめどに風力発電産業の拠点化を目指す。

ものづくり 炭鉱都市から工業都市に転換したいいわき市は、製造業が盛んで製造品出荷額は913.7億円(2014年)と、郡山市の854.5億円を引き離して県内1位。11年までは仙台市も上回っていた。東日本大震災で出荷額は落ち込んだが、徐々に回復している。国際貿易港の小名浜港があり、物流の拠点にもなっている。

風力発電だけでなく、浜通りでは、原発に代わる新たな産業を興そうと、福島イノベーション・コースト構想が進む。

改正福島復興再生特措法に位置づけられた国家プロジェクトで、廃炉やロボット、農林水産業など様々な分野で多額の研究費や補助金が投じられている。

同構想は、浜通りの企業などが関わるのが前提で、いわき市の企業もチャンスをつかもうと努力する。



会川社長よりも大きな風力発電の支柱=いわき市四倉町